



（サロン・あべの）のあつい、暑い、熱い、篤〜い——8月の出会いは、平成17年8月7日（日）午後3時から開催された「あべのカーニバル」に参加して、なんでも市通りに恒例の「さろん亭」開

店でした。

今年で第23回となる「あべのカーニバル」、気になったのはやはり天気です。猛暑が続く中で、前日、前々日に激しい雨が降り心配しましたが、当日は晴れ上がった良い天気になりました。



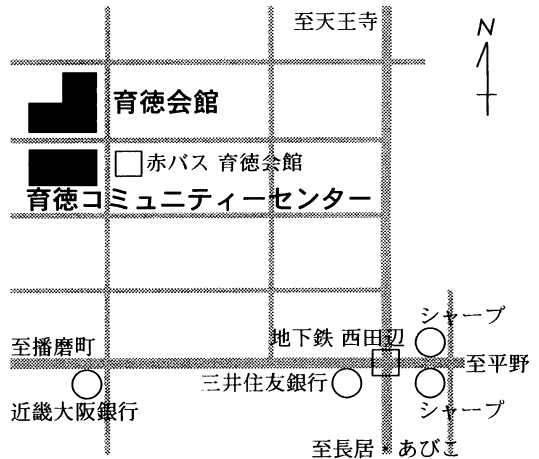
午後1時ごろから、「さろん亭」

の開店準備のため、「あべのカーニバル」会場の市立工芸高校グラウンドへ向かいました。グラウンドの中央にはダンスや音楽などが披露される舞台が設えられており、その北側に「なんでも市」通りがあります。この通りの両側にバザーの店やゲーム遊びの店、冷たい飲料水を売る店などいろいろな店が向い合って並んでいます。その一角、紅白のテントの下が「さろん亭」。多くの皆さんからご提供いただいた品物が所狭しと並べられてゆきます。売れ筋のタオル・石鹸を中央に置いて、その横のテーブルにはサロングッズや手作りの品々が並びます。食器や家庭用品・雑貨、カバン・袋物など、開店準備中にもお客さんが来て、掘り出し物はないかと品定めをしています。その頭の上では「サロン・あべの」と「さろん亭」の文字が染め抜かれた暖簾が風にはためいています。

お知らせ

<サロン・あべの>10月の出会い

日 時…10月15日(土) 午後1時～4時
 内 容…サロンよいとこ、こんなところ
 ～思い出づくり～
 お客さま…西浦清輝さん(サロン『アイ』代表)
 場 所…育徳コミュニティセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL. 06-6621-1901
 最寄り駅=地下鉄御堂筋線「西田辺」
 赤バス「育徳会館」下車すぐ
 会 費…なし
 問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



そして、午後3時、開会宣言が高らかに響きます。いよいよ「さろん亭」の開店です。

開店から千客万来大いに盛り上がりがあります。石鹸やタオルはまとめ買いをする人も多く、アツという間に売り切れ。時間が進むほどに中央の舞台では阿倍野区内の中学や高校の吹奏楽の演奏が軽やかに聞こえてきます。

今年はお手伝いいただいた方の

中に三線(さんしん)を生演奏してくださる方がおられ、「さろん亭」のムードを大いに盛り上げていただきました。そして店頭では、

売れることに奥の品物との入れ替えをして、お客さんを選びやすい店作りを心がけていただきました。お陰で、午後6時の閉店にはほとんど売り切れしました。

毎年のことですが、品物をご寄贈してくださった方、前日から値

段付けをしてくださった方、品物の搬送をしてくださった方、当日の販売のお手伝いをしてくださった方、そして、「さろん亭」に買物

に来てくださった方、後かたづけをしてくださった方、本当に多くの皆さんにお世話になりました。ありがとうございます。

今年も多くの皆さんに支えられた「さろん亭」でした。(山村貴司)

役に立ててよかったなあ

ぼくは「さろん亭」の品物集めを手伝いました。それは、毎年手伝っているからということと、お父さん一人だったら大変だと思ったからです。

荷物が多かったり、重かったりしてとても大

みんなやさしいなあ

わたしは毎年「あべのカーニバル」のバザーに行っています。今年は富田さんの手伝いをしました。それは買ってくれた物をふくろに入れてありますが、プレゼントを作っているみたい

変でした。でも、「がんばって手伝っているね」と言ってくれたり、ジュースなどをもらったりして、とてもうれしかったです。大変だったけど、みんなの役に立ててよかったなあ、と思いました。

品物を出してくれた人は、たくさん売れてサロンのためになればいいなあ、と考えてくれたのだと思いました。こんなやさしい人がいるから、ずっとずっとサロンは続くと思います。

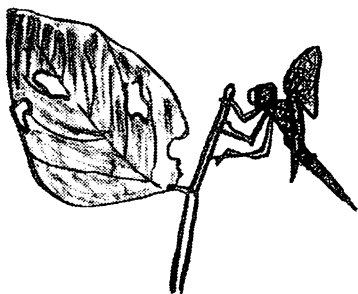
来年は品物集めは妹と交代です。荷物が重いからちゃんの手伝える心配ですが、がんばってほしいと思いました。
(原田友弥 小6)

で楽しかったです。

わたしは、売ったお金を何に使うのかなあと思ってお父さんに聞くと「サロンの新聞を作るんや」と言いました。そのお金のためにたくさんの人がいろいろな物を作ってくれたり売ってくれるなんて、やさしいなあと思いました。

前の日はお父さんとお兄ちゃんがバザーの品物を集めに行きました。わたしも行きかけたけど、車に二人しか乗れないので無理でした。来年はお兄ちゃんは中学生でクラブがあるので、わたしが行きます。どんなことをするのか楽しみです。
(原田咲子 小3)

メールもいいけど、
手紙もネ。



サロンの
一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-

アンタはもう人生で 十分代償を払っているさ

友人からロンドン塔の大きな絵葉書が届きました。小さな字でびっしりロンドンでの体験が書いてあります。心温まる文章なので、サロンの皆さんにもぜひ読んでいただきたく、ご紹介します。

梅雨時の日本を離れて、ロンドンの街を友人と車いすで歩いてみました。「車いすの人がバスに乗るのを見た」と言い張る友人の言葉に励まされ、バス停に行ったものの、どのバスもとても車いすで乗れそうもない。『やっぱり無理かな』と思いかけていたところにバスの運転手さんが「乗るのかい？」と声を掛けてきました。「乗りたいけど、車いすじゃ乗れない」と答える間もなく、バスに乗っていた男性客数名が降りてきて、私を抱え上げあっという間にバスに乗せてくれました。

病気が進み乗れなくなった『普通のバス』。10数年ぶりにバスのこの高さから見る風景は新鮮で、街の鼓動が伝わってくるようでした。その後、何度かバスに挑戦しましたが、いつもたくさんの人が気軽に援助してくれました。

帰りのヒースロー空港で、手違いから車いすが届かず、私の代わりに憤慨してくれた？インド人のポーターのおじさんはガンとして規定料金の5ポンドを受け取ろうとしませんでした。「？」「アンタはもう人生で十分代償を払っているさ」（中村真典）

サロンと私

サロンとの出会いは、覗いてみてくださるとの富田さんのお誘いでした。皆様と楽しい言葉のキャッチボールが出来、自分の視野が

広がり新鮮でした。

「さろん亭」初出店のお話にも、私に出来るのは車の出勤でした。寄贈くださったご好意を無にする事なくお声のかかるお宅へ、福祉に情熱を注ぎ活動される岡知史氏(当時、あべのポランティア・ビューロー、初代コーディネーター)が同乗。車は後ろの窓を塞ぐほど品物で満載になりました。「大丈夫、気を付けて」の気遣いの声が掛かります。クーラーのない車で右に左に細い道を走りました。

「さろん亭」でうれしそうに抱かれて行っ

たぬいぐるみ、今も愛されているかな。孫用にと求められたきれいな写真立て、今はどんな写真が入っているかな。ペアグラス、今も仲良く愛用されているかな。などと、思い出を探りながら改めて時の流れを感じます。継続を力に認知していただけた今、「あうん」の呼吸ですべてお任せの良き協力者、早々に品物を提供くださる方、と心強い限りです。多くの皆様に「ご支援」「ご協力」を得られたからこそ、20回目の「さろん亭」も開店できたのだと思います。

(辻本輝子)

● サロン紙に思いを巡らせて ●

毎日、暑い日が続いていますね。いつもサロン紙をお送りいただいて、ありがとうございます。手紙を書きたいと思いますが、聞いていただきたいことや言いたいことが多くてまとまらず、悩んでいるこの頃です。

まずは、今年読んだサロン紙の感想を少し。

前に私がおばあちゃんの介護について書いた文を「サロン・あべの」紙に載せていただきましたが、それからまもなく岡知史先生の「親の介護」（サロン紙226号）を読ませていただきました。岡先生もこれから悩まれるんだろうなーという感じるところがありました。ちょうどこの頃、私の父親が自宅で寝ている間に心筋梗塞で亡くなっていました。突然でした。

奥田真祐美
リサイタル20周年記念

○ジャン・フェラをうたう

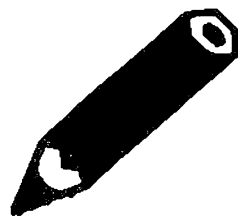
日 時=11月14日(月)
開場 18時00分
開演 18時30分
会 場=梅田芸術劇場
シアター・ドラマシティ
(TEL 06-6377-3892)
入 場 料=前売 ¥5000
当日 ¥5500
(全席指定)
演 奏=西川真・葉子ストリングス・オーケストラ
プログラム=夜と霧
クスノキのうた
ロレットに歌う 他
.....
チケット取扱・ご予約・お問合せ=
奥田真祐美 音楽事務所
TEL・FAX 06-6692-8774
Eメール mayumi@camphrier.com
.....

そして、サロン紙229号で、杉山蔦枝さん（お顔も存知ませんが）の「サロンと私」を読んで、やはり私のようにすっかり落ち込んでいた時にサロンと出会い、毎回出席を楽しみに来られていた方が、体調が悪くなり大阪を離れて今は生駒の山から、大阪やサロンを偲んでいらつしやるとの事。少し、お淋しいだろうなーなどと、思いをめぐらしていました。

5月には、「ウイズ東淀川」で、パネラーとして来られた山村貴司さんと久しぶりにお会いできました。平泳ぎの上手な方で、私も山村さんのように手だけでも、平泳ぎが出来るようになりたいと、ずっと練習していました。今では、足を使わなくても手だけで平泳ぎが出来るようになってきました。私の好きな泳ぎの一つになっています。山村さんも私のことを覚えていてくださり、うれしく思いました。

(和田保子)

20



邦子、 ●ん歳の手習い。

91年「第2回自立生活問題研究会全国集会」の思い出

1991年に大阪で行われた「第2回自立生活問題研究会集会」は、私にとって思い出深い集会でした。私の夫が実行委員長、そして、現在、DPI（障害者インテイナーショナル）日本会議事務局長として活躍されている尾上浩二さんが事務局長を務め、集会に向けての準備が進められました。関西で自立生活運動に関係している障害者を中心に、何度も集まり集会に向けて

の取り組みが話し合われ、みんなで集会を計画しました。他府県からの多くの障害者の参加者が宿泊できるアクセス可能なホテルの予約と交通アクセス情報など、尾上さんを中心に準備されましたが、その手際によさと緻密さに私は感心しました。

集会当日は全国から400名の参加者があり、自立生活運動への関心と取り組みが全国的に波及していく時期でした。集会の2日目はあいにく朝から雨でした。公共交通機関を利用して来られる障害者にとつて、雨は大敵です。私は、皆さん雨で大変だろうなと思いつながら夫を会場まで送っていくために車を運転していました。ところが、芦原橋駅の付近で、雨具をつけた大阪の車いす障害者の方が、他府県の車いすの方達を笑顔で引率して会場の大府総合福祉センターに案内している光景を車中からみて、引率者の手際の良さと皆さんの雨にも関わらず、楽しそうな様子にまたもや感心してしまいました。

お母さんです。今思えば、集会の運営に関わった方達も当時皆さん若かったですし、自立生活運動への情熱がみなぎり、私は、側でみていてとても楽しかった思い出があります。

先日、1974年から大阪青い芝の会で介護者として関わっていた細井清和さんに、70年代の障害者のことなどをお聞きしました。細井さんは、現在は障大連（障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議）で障害者の支援活動をしておられます。

細井さんが活動し始めた74年当時は、大阪青い芝の会では、仲間づくりのために障害者の家庭を訪問するという在宅訪問を行っていました。訪問先では、就学猶予免除で学校に行けなかった障害者が多く、親御さんに大事にされているのですが、家から一歩も出たことがないというのがざらだったということでした。外へ出ましようかと言うと、障害者は喜んで初めての外出はみんな緊張して、「ああ空って青いんですね」といつて感動したそうです。しかし、その頃

は、障害者が外に出る事が少なかったの
で、公共交通機関を利用すると安全を理由
に乗車を拒否されたり、お店に入ると他の
お客さんに迷惑だからと入店を拒否された
りという問題がしょっちゅうあり、そうい
う経験の中から、障害者の方達はそれらの
問題に抗議していくようになり、強くなっ
ていったということです。細井さんは、当
時、障害者が新しい自分の生き方を見つけ
ようとしているはつらつとした姿や新しい
ものにチャレンジしていこうとする意欲に
惹かれて、障害者についていったと語って
います。

91年の前述の集会で、夫の介護者として
側でみていた私は、会の準備や障害者の参
加者への配慮などについて特に感心してし
ました。細井さんのお話をお伺いし
て、91年の集会は、青い芝や細井さんと同
じような経験を持ち、自立生活運動を地域
で実践していた人達の尽力で、参加者への
配慮も行き届いた内容の充実した集会にな
ったのだと思いました。

(定藤邦子)

町も街も「まち」と読むが、前者は私た
ちが住んでいるごく普通の「まち」を思い
浮かべ、後者はいろんな店が並んでいてそ
の前をたくさんの方が
行き来しているにぎや
かな場所、いわゆる繁
華街が連想される。

繁華街といえば大阪
では、代表的な場所が
キタ（梅田）とミナミ
（難波）である。私はど
ちらもたまにしか行か
ないが、いつ訪れても
人の多いのには驚くば
かりだ。それだけに今
流行の奇抜でカラフル
な服装の人たちに出会
うことができ、時代おく
れの私にとっては良い勉強になる。

話は違うが、私は並木道の街路灯は風情
があって好きである。その街路灯はたい
い並木より低い位置に立っている。なぜか
と言えば並木も夜には眠るので明るくは

眠れない。それで街路灯の灯りが並木の眠
りの妨げにならないように低くしてあるそ
うだ。こういうところにも思いやりや気配
りをしているのかと思
うと、なんだかうれし
くなってくる。

ところで人間の住み
やすい理想的な町と
は、周りに山や川が
あって小鳥や蝶が飛び
かい、虫が鳴いている。
そんなうるおいとやす
らぎを感じるような町
だと言われている。

私の住んでいる永和
（えいわ）という町は理
想には程遠く、何の特
徴もない町である。だ

が『住めば都』で、私は永和という町が大
好きで、これからもずっと生まれた地の
永和で住みたいと思っている。

永和の町よ、バンザーイ！
永和の町よ、アリガトウ！

晴れのち晴れ 84

町（街）

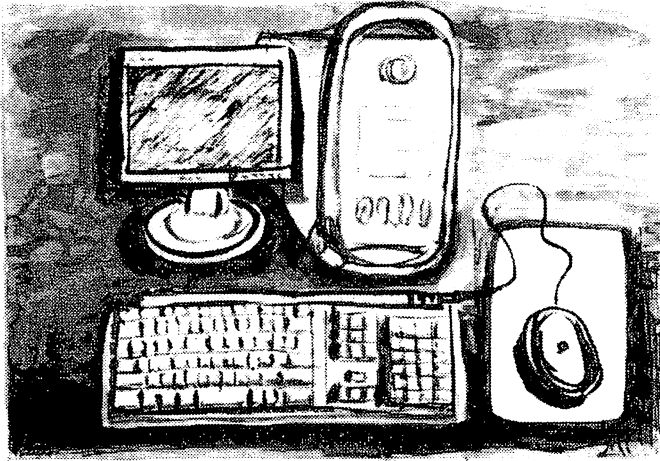
稲垣 恵雄



二十年の歩み

「サロン紙のホームページを作りました」と、この紙面に書いたのは、二百号のときだ。そこにこれまでのサロン紙をすべてホームページ上に載せると宣言したのである。

それから二年半たったが、サロン紙を掲載す



る作業はなかなか進まなかった。というよりはつきり言えば、作業は中断していたのである。さぼっていたわけではない。実際に作業を進めてみると、非常に時間がかかることがわかったのである。

まず、スキャナーの感度を設定するのが難しかった。感度を高くすれば、紙面は真っ黒になってしまう。低くすれば、真っ白になる。その中間ぐらいに設定するというのが、写真があったり、文字の濃さがページごとによっていたりして設定に手間取った。設定しなおすたびに、スキャナーを動かし、印刷し、前に印刷したものと読みやすさを比較し・・・といった作業をやっていると、一分だけを掲載するのに、ずいぶん時間がかかる。数時間、がんばってみても、結局、いくつかしか掲載できなかったこともあり、ついに諦めてしまっていたのである。

その後、スキャナーを買い換えたりしたが、やはりその手間は減らなかった。それが劇的に

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

楽になったのは、先週、新しく買ったスキャナーのおかげである。

ここでスキャナーの宣伝をしたいわけではないので、詳しい説明は省くが、いままでのスキャナーとは全く違う代物で、それこそ、あつという間に紙面を写し取ってしまう。いままでの苦勞が嘘のようなのだ。

それで、新しいスキャナーを使いこなす楽しみもあり、四五日間、集中して作業をして、半ば目に痛みを感じながらも、ようやく二十一年間に発行されたサロン紙をほぼ全てスキャナーで取ることができた。(場所については、サロン

あべの愛♡博覧会

残暑厳しい9月3日(土)午後1時～4時、阿倍野区役所2階大会議室で「あべの愛♡博覧会」が開催されました。区内で地域福祉活動をしているグループや団体から31のグループが参加し、各自のブースで日頃の活動状況をパネル展示したり、相談コーナーを設けたりしていました。この博覧会は、阿倍野区では初めての試みで、「みんなが支えあいながら、自分らしく安心して暮らせる地域づくり」を目指して阿倍野区地域福祉行動計画を策定、推進していこうとする取り組みの一つです。各ブースは、色鮮やかな手書きのパネルであったり、写真たっぷりの説明であったり、大きな区内マップに集いの場所を明示したり、日頃の活動をビデオ放映したり、一つとして同じ内容はなく、お祭り広場の屋台見て歩きの感じで一巡できました。また、その中にスタンプラリーが8ヵ所あり、スタンプ集めも楽しいものでした。ボランティア活動も点訳や手話など、おなじみのものもあれば、子育て支援連絡会や、高齢者を抱える家族をささえる介護家族の会、通所介護事業所連絡会、心の問題を相談できる心理相談室など、人の一生を支える会が多くあることを知りました。そして、身障者の団体協議会や障害者作業所連絡会なども。この区では障害があっても、高齢になっても不自由や不便を感じた時は、相談できる会があり、多くの人たちの手と目と思いやりある活動が、それらを受け止めてくれるだろうと心強く思いました。(け)

……さきみみずきん

紙の最後のページに掲載されています。) 終わってみると、やはり二十年は長かったよ
うな気がするのである。スキヤナーで取りな
ら、私はざつと二十年分のサロン紙を一気に読
んだわけだが、この間に亡くなった人が何人も
出てくる。二十年の長さを考えれば、それは当
然のことなのだろうが、懐かしく思い出した
り、人の命のはかなさを感じたりする。
私は自分の生活のなかで思うことを自由に書
かせてもらってきたので、十年以上前の文章を

読み返して、すっかり忘れていたことなどを思
い出し、正直いつて困った気持ちにもなった。
私はまだ使っていないのだが、光ファイバー
接続でインターネットを利用している人なら、
クリック一つで、五年前だろうが、十五年前だ
ろうが、簡単にそのときどきのサロン紙を見る
ことができるはずである。ちよつとしたタイム
マシンの窓をのぞいている気分も味わえるかも
しれない。
ただしサロン紙に掲載されていた写真はきれ

いに取れなかった。これはコンビニにあるコ
ピー機で写真をコピーしてもきれいに写らない
のと同じである。
とにかく容量は三百メガバイト以上、フロツ
ピーディスクでいえば二百枚以上の内容です。
インターネットに接続されたコンピューターさ
えあれば、いつでも、どこでも、地球の裏側で
でも二十年分のサロン紙を簡単に読むことがで
きます。多くの方のご利用を期待しています。
(知)

赤松 昭

「谷間」に 「ごだわり」続けて

16

「司法と福祉の谷間」(その1)

皆さんはご自身、あるいは家族のことで「裁判」にかかわった経験をお持ちでしょうか。個人的に関わるというより、障害者に対する行政の不作為を糾弾する裁判闘争に関わった経験のある方は多いと思います。しかし、私に関わる脳損傷当事者の方々は、受傷原因の多くが交通事故等の外的要因による、という特徴があり、その責任帰趨をめぐって刑事裁判に関わらざるを得ない方がいます。ご存じの通り、刑事裁判は国が加害者を裁く、という仕組みですので、加害者が法廷で、

あたかも被害者側に落ち度があるような、あるいは自らの責任を回避するような証言をしたとしても、被害者家族は黙って聞いているしかありません。さらに、略式起訴や不起訴になれば裁判自体開かれることはありませんし、立件されたのが遠隔地だと、知らない間に処分が下されていることもあります。いつまで経っても連絡がないので、担当地検に連絡すると、「加害者は略式起訴されました」と言われ、どうして知らせてくれなかったのかと言うと、「そういう義務はありません」という事務官の返答。納得がいかないと思うのは当事者だけではないと思います。

交通事故事案は加害者側に甘い処分が下りがちです。被疑者調書も加害者側の一方的な供述で作成されたり、目撃者も面倒なことに巻き込まれたくないので証言を拒んだりして、被害者に不利になることも少なくありません。何しろ、肝心の本人が意識障害などの障害を抱えているため、証言できないこともあります。「悔しかったら本人に喋らせてみる」。電話をかけた被害者家族にこう捨て台詞を吐いた加害者もいたそうです。

感情論で物事を捉えるのは良くないと思う

のですが、刑事罰を受けさえすれば、加害者は以前と変わりない日常を送ることができるとに対し、被害者とその家族がやり切れない思いを抱いていることは事実です。しかし、福祉に関わる行政や相談窓口の担当者はいったいどうした感情にあまり気を配ることはありません。周囲の人も同様で、下手をすれば「人を恨んでも仕方ないよ」等という無責任な励ましをすることさえあります。〈障害当事者とその家族であるのと同時に、事件・事故の被害者でもある〉。こうした両義性をもつ脳損傷者とその家族にどのようなサポートが必要なのか？ 皆さんにも一度考えていただきたいテーマです。

今回は民事裁判に関わる話をします。



美智子のこんな話

岸田美智子

障害者自立支援法 廃案に！

郵政民営化法案が参議院で否決され、そのおかげで衆議院が解散になり、成立していなかった自立支援法を含む法案は、すべて廃案になりました。

良かったと思ったのも束の間で、10月の臨時国会では再提出すると尾辻厚生労働大臣が早くも明言しています。その法案の内容も、あまり変更もなく出されてくるそうです。

9月11日の総選挙で政党が変われば、少しは良いように変わることを期待したいものです・・・。

この間、私達は何度も東京に行き、大規模な反対行動を行ってきました。自民党が各地で行った公聴会などに私達の仲間も参加して

情報を聞いたりしています。

三重県四日市で行われた公聴会では、会場からの質問に同党の障害者特別委員会委員長の八代英太議

員などが解答されていた言葉に、私も怒りを覚えました。この自立支援法では、絶対にサービスは悪くならないと自信たっぷりに言っておられたそうです。ご自身が車いすの利用者の八代議員へ「あなたはガイドヘルパー制度を使った事がありますか」との質問に「私は使った事がない。何でも制度というのは良くない。ボランティアで、心を通わせるのが大切で、私は出来ない事は家族や秘書にやってもらっている・・・。」という信じられない発言をしたそうです。

ボランティアに頼れという発言に、今頃、障害者の生活介護をボランティアに頼るといふのは、なんと時代遅れでしょう。それに増して、家族や秘書に頼っているという発言をするというのは、いったい何様だと思ってい

るのでしょうか。すべての障害者が秘書を雇えるのでしょうか。自立支援法案を作り上げた張本人の発言だと改めて実感しました。皆さんはどう思われますか。

ありがとうございました。

カンパ、切手・ジュース・お茶・お茶菓子・バザー用品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げ、そしてさろん亭の品物の値段付けや販売、商品搬送のお手伝いなど、ありがとうございました。

カスタネット（竹下洋子・松村美鈴・宮脇信子・山本真奈美）安達尚子、阿倍野区肢体障害者部会カークラブ（井上昭一・清水敬一）、伊佐常和・悦子、伊勢村和子、上平幸雄、岡賀寿子、加賀谷正、神谷君栄、桑田加代子、目中和子、澤田妙子、新垣良子、関幸子、大丸久美子、高尾澄男、竹下秀樹、竹野良枝、豊谷伸浩、辻本輝子、辻本浩江、寺岡富子、富田万里子、富田慶子・十一、中村宣子、中村久子、原田咲子・友弥・仁・博子、久木浩、藤井さゆり、牧口美世、八木千代、山村貴司、山村久子、山本敏子、その他の方々（敬称略）

【ごいっしょに作りませんか】す。巻くだけで余分なしわができます。

今回は、バスタオル1枚でなく体にフィットし、安全ピ
できるお食事の時のケープでんで止めることは要りませ

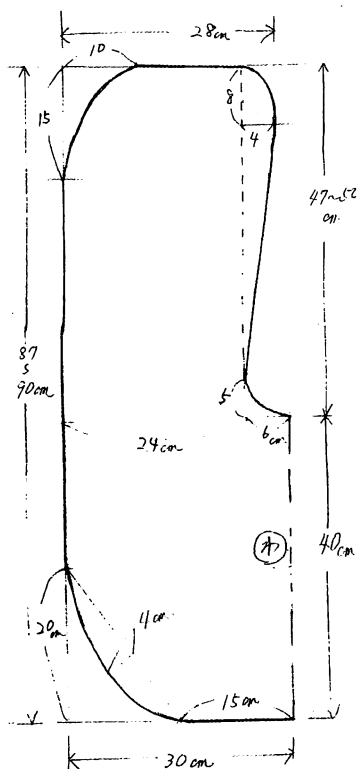
かわいいプリント柄で作るのもオシャレです。刺繍したり、アププリケをあしらって作るのも楽しいものです。そして、残り布を使って、ひざ掛け、お手ふきタオルを作れば、セットでお楽しみいただけます。

□材料

- バスタオル 1枚
- パイピングテープ 18mm幅 約4m (市販テープ2枚)

□作り方

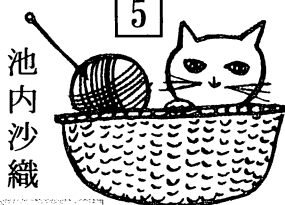
- ①バスタオルを縦長に二つ折りにする
- ②折り山に型紙の(わ)を合わせてカットする
- ③パイピングテープでくるんで出来上がり (図・写真参照)



ひとつずつ
ひとつだけの世界

5

—ケープ



池内沙織
手沙織工房

ん。肩掛けケープとしてお使いになれば、保温にもなります。もちろんお洗濯は簡単に



YUIMARI

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま

—問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織—
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上ビル101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp



随組ニュース

10月はどこのサロンの、どのテーマが
気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」10月の出会い

日時：10月16日（日）午後1時30分～4時
内容：美しきモンゴル紀行
～モンゴルを旅して、日本の環境問題を
考える～
ゲスト：三中西 篤氏
（モンゴル非電化プロジェクトに参加）

会費：なし
場所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」10月の出会い

日時：10月8日（土）午後1時30分～4時
内容：車いす操作の基本を学ぼう！
会費：なし
場所：西区在宅サービスセンター6階
ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14（西区役所隣）
地下鉄＝西長堀駅 4-A号 出口からすぐ
市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ
☎ 06-6539-8075

問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■「サロン・にしよど」10月の出会い

日時：10月22日（土）1時30分～3時30分
内容：気功（女性のための指圧室）
ゲスト：横山道子氏
参加費：なし
場所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」

問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎ 06-6494-0635
中本 ☎ 090-9864-9678

■サロン「アイ」10月の出会い

日時：10月8日（土）午後1時30分～4時
内容：椅子体操
パネラー：松本英樹氏（つるはし健康友の会）
会費：なし
場所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎ 06-6757-8574

■《てくてく・すみよし》10月の出会い

日時：10月10日（月＝祭日）
集合時間＝午前11時、場所＝JR百舌駅
内容：焼肉パーティー
場所：大阪府立堺養護学校・グラウンド
会費：2000円（材料費含む）
申し込み締切り：9月30日
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎ 06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」10月の出会い

日時：10月2日（日）午後1時30分～4時
内容：わんだフルな共生、10万年-レスキュー
犬って？
講師：石井勝治氏
会費：なし
場所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
問い合わせ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）
田村 ☎ 06-6913-7070

■「サロンいたみ」・「サロン北」10月の出会いは
お休みです。

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で<サロン・あべの>紙第230号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) <サロン・あべの>紙は、第1号より第230号までそろっています。
- (b) <サロン・あべの>十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「<サロン・あべの>平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセイ集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

- んわ音訳)
 - (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
 - (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけっと音訳)
 - (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (n) 「奥田真祐美のシャンソソ手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
 - (p) 「猫とシャンソソ」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
 - (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
 - (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
 - (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
 - (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
 - (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送6月26日)の録音テープ
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

寄りみち



今、パソコンで編集なんて偉そうにいうてますが、10年くらい前まではワープロも扱えなかったんです。それが、「てくてく」のY嬢からワープロを貰い受けて、ポトン・ポツンと雨だれくらいにはできるようになった頃、パソコン、パソコンと世間が騒がしくなって、私の耳にも留まるようになってきました。発端はシンプルなワープロでしたが、あれがなかったら、今でも、旧態依然としたやり方で編集をしていて、パソコンとは縁遠い世界にいたと思います。(石)

<サロン・あべの>VOL. 231 発行：平成17(2005)年9月17日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>